学校だより

あったか三川内

令和３年　12月３日
佐世保市立三川内小学校
校長　磯平　正敏

学校教育目標：「夢に向かい　自ら学び、考え、行動する　心豊かな子どもの育成」
郷土「三川内」に誇りをもち、たくましく未来を切り拓いていく、
心豊かで元気のある子どもを育成する。

【福祉体験学習】

１２月１日（水）５・６校時、４年生が福祉体験学習をしました。佐世保市社会福祉協議会より２名の講師の方に来ていただき、車いす体験とアイマスク体験をしました。子どもたちは、２～３名のグループをつくり交代で車いすの操作をしました。体育館には、マットや跳び箱の踏切板を段差に見立てて置きました。友達を乗せた車いすは思ったよりも重く感じ、マットや踏切板のちょっとした段差でも操作は大変だったようです。初めて車いすを操作した子どもたちは、「前輪を上げるのが難しかった。」「足が不自由な人の不便さが分かった。」「乗ってみて、操作するのが難しかった。」など、当事者しか分からない苦労を実感できました。

次に、アイマスク体験です。２人１組になり１人がアイマスクを着け、もう１人が補助に付きます。体育館を出て１階から２階への階段を上り、渡り廊下を歩いて階段を降りるなど、実際に目が不自由な人の気持ちになって歩きました。「目が見えないので怖かった。」「階段を下りるのが怖かった。」「側についての声掛けがとても大事だということが分かった。」など、目が見えない不自由さを実感できました。

体育館には、今まで子どもたちが福祉の学習で調べたことや学んだことなどをまとめた模造紙を貼り、学びの足跡を展示しました。社会福祉協議会の方々も、子どもたちが福祉に対して関心をもち、理解を深めていることを大変喜んでいました。このように継続した学びの中に体験的な学習を取り入れ、より実感として子どもたちに理解を深めさせることが大事だと思います。これから子どもたちは、自分の回りに目を向け、家庭や地域でも不自由さを感じている人たちがいたら、自分たちに何かお手伝いが出来ることはないかと考え、実践に移していけるといいなあと思います。

「共生社会」実現に向けてのインクルーシブ教育が重要視されています。これからも、その重要度は増してくるものと思います。健常者も障害をもっている方も、誰しもが不自由なく共に手を携えて生きていける社会へ、これからの子どもたちが創り上げていくことを願っています。まずは、大人が共にという福祉の精神をもち、子どもたちに示していくことが大切ですね。